



発行 平成27年3月末日(年1回発行)
発行 東京潮陵樽中会
事務局 横浜市緑区上山3-39-16-D-302
岸田仁方
Tel 045-933-0096
e-mail info@choryo.org
HP http://www.choryo.org/

会長挨拶『昭和時代の会から平成時代の会への第3局へ』

65期の佐々島宏です。本会の行く末は、卒業生の情報さえ個人情報保護法で取得できず会員拡大はとても難しい現状といえます。加えて、日本全体の縮図の先駆けとして、小樽は、人口減少と高齢化の波が既に進行しています。当然のごとく卒業生数も少しずつ減少しています。この傾向は長期の先細りが予測されます。昭和の時代は、右肩上がりの成長の時代でした。これからは、いろいろな事が減少する中でいかに維持継続して行く時代である事と考え、平成時代の会の運営目指し英知を結集し取り組む考えです。しかし、極端に言えば閉山炭鉱の復活の経験に似た、これまでの右肩上がりの昭和の成功経験則とは違った挑戦からのみ創設可能な英知と考えており、昭和の時代の組織運営ノウハウやイベント構成経験則では、短期の集客はできても長期的には役立たないと考えて居ります。であるなら、若者に挑戦の場所を提供し、古株は最大限協力し進める事から始めようと考えております。

これまで、『東京潮陵樽中会』は、事業で成功した人が会長を務め丸抱えで会を運営してきた過去より、第1局は、法務教育の分野から公的職経験者の内田文昭会長(45期)へのリレーに始まり、第2局は企業を経験し、リタイアした大浦辰次郎会長(54期)へのリレーで市民活動的な運営形態への変革をし、低額運用での黒字化をしていただきました。加えて、同期の新倉吉晴会長(54期)であった事も有り、小樽の潮陵倶楽部との交流が活発に成りました。

一昨年から私が会長を務める事と成り、第3局平成の運用形態へのリレーをしました。我が会のメンバーのすごさだと思いますが、これまでは、今まで会の運営にあまり関わりの無かったメンバーが会長軍を編成しリレーをする方式でしたが、初めて内部役員より持ち上がりで私がリレーしました。このプロセスは改革の為には必要不可欠のリレーであった事は、副会長としてサポートしていた私は確信しています。

引き続き、進めたい事は、

①『会の姿勢変更』

会の会則には無いですが、これまでは、「卒業生なのだから来い！」という姿勢。「対面式」で異常な歓迎から始まった

潮陵の文化を継承して、「新会員の歓迎から始めよう！」その為、『総会+歓迎会』を5月開催に変更しました。何らかの互いに役立つ交流の深さを単に親睦より少し深め「もっと親睦を深めよう！」と同じ釜の飯を食うという事で『同釜会』を12月に開催に変更を行いました。※この事で、小樽会の行事との重複を避け調整も行います。



②『同期会の手助けをしよう！』

我が65期も60歳と3・11を機会にミニ同期会を始めました。何かのきっかけで同窓・同期の互いの存在感の認識は、とても人生の糧に成ります。そんな体験を後輩に自然に伝えたいとの思いもあり、並行し新会員の獲得を含めて同期会の手伝いを随時進めます。

③『潮陵&小樽支援』

潮陵倶楽部や在小樽OBと連携をして何らかの形で、母校支援を微力ながら力を合わせ継続的にいき、「夢と希望ある」会の新事業の模索を進めております。潮陵同窓会館デスクを設け小樽との協議を継続的に進めています。

昨年は、母校の協力を得て卒業式でのピラ撒き実施、同期会のインターネットの検索、クラブOBネットワークの協力など少しずつ展開をしてきています。潮陵倶楽部との連携も、同期の西條文雪会長(65期)にリレーされた事も幸いし、一層強固になる可能性を持ちました。その結果、初めて若い方の協力を得て、会場設営・運営新企画・若者の挑戦の場所として、『第58回定時総会&新会員歓迎会』を5月18日原宿のイタリアンレストラン「ベニーレベニーレ」で開催し、81名参加、20代~30代の若者が30名(含む在学生5名)、会初めて現役湯田恭丈校長の出席も頂きました。また、『2014

同釜会』を12月7日飯田橋「北海道」にて、40名の参加、新会員8名増員が図れました。お土産も小樽のOB企業の商品を企画展開できました。

これまで会を継承し支えていただきました先輩の皆さま、本会の新たな挑戦・再構成に多大な協力していただきました。本当に有りがとうございます。今後とも、これまでの親睦会の流れと人的リレーを継承しながらも、「昭和の同窓会から平成の同窓会」へ、ゆっくりですがいろいろな事が新たに改革を進める必要が有り、皆様には当分の間、忍耐と支援のご協力を仰がなければなりません。

私自身、小樽潮陵高等学校にはある特別な恩を感じており、ここまで、色々な挑戦をし続けている背景には、潮陵生に対する小樽地域ぐるみの期待と寛容な支援を受けた事を覚えて居り、その事で、微力ではありますが、母校や小樽へ

の支援したい思いがいっぱいです。その期待と寛容な支援を持つ地域環境は、『社会的共通資本』であり、その様な支援感、これは、時代をさかのぼる旧制中学校時代のマントを着た「学生さん」に対する対応と似た環境かもしれないかと考えて居ります。私自身も昭和右肩上がり時代ですので、これから第一線のリーダーを担うメンバーの挑戦の機会を作り、それを支援する側に回る所存です。そのこと自体が新たな潮陵らしい『社会的共通資本』の創造活動であり、若者が自然と集まる会へ、本会の目指す会と目標に据え進めていきます。

今後とも、重ねてご支援のほどよろしくお願ひいたします。

平成27年1月1日 東京潮陵樽中会会長 佐々島 宏

第58回定時総会第及び新会員歓迎会開催報告

第58回定時総会及び新会員歓迎会は、平成26年5月18日(日)、初夏の明るい日差しと若者の熱気に溢れる街、原宿表参道のレストランテ ベニーレベニーレにて開催されました。

今回は、定時総会と新会員歓迎会の二部構成で行われ、総勢81名の同窓生が集いました。20歳代、30歳代から約30名が出席し、幅広い世代による総会、懇親会が実現しました。

16時からの定時総会は、校歌斉唱、この1年間に亡くなられた同窓生への黙祷ののち、岸田仁事務局長(67期)の議事進行で開始されました。初めに佐々島宏会長(65期)から挨拶があり、今回は新しい試みとして、例年7月に行われていた総会を5月に変更し、新卒業生や新社会人、若い新会員の歓迎会を企画したこと、インターネットやフェイスブックを使って新たなメンバーと連絡をとる体制ができたこと等が報告されました。

岸田事務局長から第57回事業年度事業報告と収支決算報告、第58回事業年度計画案と収支予算案が諮られ、いずれも満場一致で承認されました。役員人事では、仲川正子副会長(56期)の退任が了承されました。また、会則の一部変更が了承されました。

引き続き、16時35分からは、今日出夫副会長(67期)と野崎いづみさん(93期)の司会による、新会員歓迎会に移りました。

来賓の小樽潮陵高校校長 湯田恭丈様からは、校内に咲く桜「潮陵」にまつわる話題が紹介され、伝統校としてこれからも人材を輩出していくとの決意が述べられました。また、38度の高熱を押して出席された衆議院議員 中村裕之さん(73期)からは、母校に生徒一人ひとりのロッカーを設置するための予算獲得の裏話などが披露されました。

次に、本日のメインゲストとして100期以降の新会員5名、

直江香世子さん(100期)、脇本行彦さんと西村裕喜子さん(102期)、廣谷壮介さんと西田恵さん(104期)の紹介が行われ、小樽潮陵倶楽部副会長 西條文雪さん(65期)の乾杯の音頭を受けて、同期を中心に集まったテーブルごとに歓談が行われました。

今回の新会員歓迎会は、企画段階から若い会員がスタッフとして参画してアイデアを出し合い、佐々島会長の「歓迎することから始めよう」を合言葉に、多彩な演出で、会を盛り上げてくれました。

17時30分からは、直江香世子さん(100期)(ピアノ)、窪田晶子さん(85期)(ソプラノ)、福井早枝子さん(65期)(ソプラノ)の御3人によるミニコンサートが行われ、今話題のディズニー映画「アナと雪の女王」の挿入歌などが披露されました。

俳人の海野道子さん(73期)(俳号 樺末知子さん)からは、昨年11月から母校で始めた俳句授業の様子、選者として出演している「NHK 俳句」の様子が報告され、俳句を通して母校、小樽に関わり続けたいとの想いが伝えられました。

テーブルごとのチーム対抗による潮陵クイズでは、現在の母校の状況、小樽の様子が出題され、同窓生から寄贈された賞品の争奪戦が繰り広げられました。平成26年度の新入生の一番多い出身中学(答え:朝里中学校)、平成25年度の在校生の男女数(答え:男女とも419名の同数)、ローソンで大ヒットしている小樽の味(答え:餡かけ焼きそば)、小樽駅の窓ガラスの装飾(答え:ランプ)、潮陵100周年記念ドリームプランの訪問国(答え:グリーンランド)など、改めて時の流れを感じさせられた問題でした。

クイズの際には、座席をシャッフルし、一卓に様々な年代が交じって相談し合えるようにしました。結果、1位A卓チームにはガラス作家 馬場雅己さん(90期)制作のガラス製一輪挿し、2位G卓チームには新倉屋さん(54期)新倉吉晴さ

ん)のお菓子詰め合わせ、3位 C 卓チームには堀内水産さん(67期 堀内万記子さん)の昆布巻きが、賞品として授与されました。

続いて、ユニマット大沢商会 黒坂則昭さん(67期)から寄贈された男性用、女子用の腕時計各1個を巡って、全員参加のじゃんけん大会が行われ、それぞれ、佐竹茂市郎さん(63期)、上野淑子さん(47期)の腕に納まりました。

楽しい時間はあっという間に過ぎて、終了時刻の18時30分となり、最後は、恒例により出席者の最年長である36期樋口弘 大先輩によるユーモアと含蓄あるお話と三本締めで、



閉会となりました。帰りのお土産には、中ノ目製菓(65期 中ノ目孝道さん)の大粒の甘納豆を頂きました。若い同窓生が多数参加した、華やかで楽しい会となりました。

なお、新倉吉晴さん(54期)、黒沢則昭さん(67期)、中ノ目孝道さん(65期)には賞品のご提供・ご協賛をいただきました。

開会・閉会時の楽曲として直江香世子さん(100期)のCD「Salacoro 涙のあとに・・・」を使用させていただきました。また、開催にあたり多くの方よりご寄付を頂戴致しました。末尾となりましたが、厚くお礼申し上げます。

第57回事業年度収支決算(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

科目	予算	実績		
		金額	小計	合計
1 当期収入(A)	1,355,000			837,343
1.1 定常収入	1,005,000		508,240	
1.1.1 年会費	600,000	278,000		
1.1.2 寄付金	300,000	168,240		
1.1.3 広告代	75,000	32,000		
1.1.4 助成金	30,000	30,000		
1.2 事業収入	350,000		329,000	
1.2.1 総会・新会員歓迎会	350,000	329,000		
1.3 その他収入	50	103	103	
2 当期支出(B)	1,100,000			1,019,539
2.1 ウェブ・会報	490,000		386,291	
2.1.1 ホーム・ページ	50,000	147,170		
2.1.2 会報	440,000	239,121		
2.2 事業	370,000		544,394	
2.2.1 総会・新会員歓迎会	370,000	544,394		
2.3 事務局関係費	240,000		88,854	
2.3.1 事務局費	40,000	26,409		
2.3.2 会議費	100,000	60,265		
2.3.3 雑費	100,000	2,180		
当期予算収支差額(C) [(A)-(B)]	255,000			▲ 182,196
連携事業(D)	220,000			
会議・事務局・備品	220,000	171,610		
当期予算収支差額(E) [(C)-(D)]	35,000			▲ 353,806
前期繰越額(F)	874,867			874,867
次期繰越収支差額(E)+(F)	909,867			521,061

同釜会(おなかまかい)報告

東京潮陵樽中会の忘年会を、去る平成26年12月7日(日)に居酒屋「北海道」飯田橋駅前店で開催しましたので、概況を報告します。

今回の忘年会は、かつて、小樽中学、小樽潮陵高校で学び、同じ釜の飯を食べた同窓生が気軽に集まって、また、一緒に同じ釜の飯を食べようという趣旨で、同釜会(おなかまかい)と名付けています。

46期から108期までの老若男女40名が参集し、にぎやかで、楽しい会となりました。

現役大学生の4名を含め、8名の方が、初めて東京潮陵樽中会の会合に参加してくれました。同釜会は、実行委員長の宮野人至さん(86期)の司会で始まりました。初めに岸

田仁事務局長(67期)から、樋口弘さん(36期)、吉村弘さん(39期)の訃報連絡があり、全員で黙祷を捧げました。樋口さんは、5月の総会でご挨拶と三本締めを行っていただき、元気なお姿を拜見したばかりでした。続いて、校歌斉唱、佐々島宏会長(65期)からは、やや堅苦しい総会とは別にもっとお互いを良く知るための気楽な交流の場として同釜会を企画したので楽しんで頂きたいとの挨拶があり、参加者最年長の島雄一さん(46期)の乾杯の音頭を合図に、北海道料理、鍋を囲みながら歓談、交流が行われました。

歓談の合間に、今回初参加した現役大学生の越前淳己さん、中村朋暉さん、三浦綜介さん、渡邊健吾さん(いずれも108期)、および大塚美来さん(95期)、佐々木和哉さん(95

期)の自己紹介が行われ、各々、先輩諸氏から熱い激励を受けました。

出席者から順次近況報告を頂く間に、20階からの眺望もすっかり夜景に変わり、あっという間に閉会の時間が近づきました。小樽会会長の清水川洽二さん(52期)のご挨拶の後、島さんとともに参加者最年長である布施市蔵さん(46期)の一本締めで、閉会となりました。おみやげには、小樽名産の

中ノ目製菓の甘納豆と、北海道ワインのナイアガラ小瓶を頂きました。

その後、名残惜しい一部の方は二次会へと街に繰り出し、我が同期(65期)も、神楽坂でミニ同期会を行いました。今回、初参加の皆さん、是非、来年5月の総会にも、同期の仲間を誘ってご出席ください。楽しい企画を用意して、お待ちしております。



『私は今』 近況 (H26. 5 総会案内時およびH26. 12 同釜会案内時の近況連絡より)

【33期】**齊藤 始**(志木市) 外出叶わなくなりました。諸兄のご健康を祈ります。

【38期】**正野 勝也**(西東京市) 案内をいただきましたが、老骨にして不如意、欠席します。**乾 学**(我孫子市) 元気です。4月我孫子市老連春季グラウンドゴルフ大会に参加、優勝しました。これからも週4回練習、健康管理につとめます。

【39期】**永井 一男**(調布市) 健康第一と心得てここ約30年に亘って禁酒禁煙・水泳を続けています。**山本 巖夫**(大田区) まだ、半日ずつですが、週3日診療を続けています。老害も顧みず……**菊池 欣二**(世田谷区) 年令相応の生活をいたしております。**藤野 破摩雄**(横浜市) 永年、心臓を患い療養中です。

【40期】**和田 昌雄**(川崎市) 年老いてひっそりと生きて居ります。**新津谷 哲**(相模原市) 今朝は新聞小樽通信局編「小樽」(S.54 刷)と言う珍しい本を読んでいる。樽中の? 当時? なつかしい? 友らのお名前が随所にみえてきて、感慨深くなつかし。86才現役外来診療を続けている!!

【42期】**勝田 晴夫**(八千代市) 年令ですので足、膝が弱り遠出は出来ません。相変わらず孫達と一緒に暮らして毎日を過ごしております。**船戸 尚**(藤沢市) 数年前迄は毎日1万歩を歩いていましたが3年前位前転倒した辺りから、足腰が弱って来ています。現在は300m位の散歩です。

【43期】**間所 一郎**(我孫子市) 本年3月久しぶりに上野淑子さんのシャンソンを聞き、若返りました。ただ、会場の日比谷公会堂の入口の階段が高く、苦労しました。**山口 保**(世田谷区) 先般43期立山会を持ち北海道よりも参加盛会でした。小生毎年船に乗り今年も4月クリスタル・シンフォニーに乗船します。**西田 修**(横浜市) 樽中43期、昭和23

年3月、4年生を終了で北大予科へ。**林原 隆一郎**(横浜市) 去る3月28日桜咲く新宿で3年ぶり同期17名元気で顔合わせしました。

【44期】**鬼頭 建治郎**(所沢市) 家内に先立たれて8年、3月に83才になりましたが元気でゴルフに精を出しております。**森 啓**(横浜市) 体調不良のため会合は見合わせています。**吉原 秀**(中野区) 年令と共に足腰が弱り欠席いたします。会の発展をお祈りいたします。

【45期】**剣物 治郎**(東村山市) 予てから5月18日~20日には塩尻・松本への小旅行が計画されておりますので大変残念ながら総会には出席できません。**松橋 健司**(取手市) 10月頃には「一字はがき百撰」が出版されます(文芸社)。うう!! ご期待。**山部 清一**(八王子市) 会報11号うれしく拝見、次号も送っていただきたくよろしく。

【46期】**中島 健一郎**(中野区) 満80才を越えて毎週病院通いです。昨年は3回約1ヶ月入院加養しました。何とか頑張っています。**望月 富美**(富士見市) 80才を過ぎ、身体のあちこちに、痛いところもありますが、1人暮らしをして頑張っています。**布施 市蔵**(小平市) 今年82才になる。年なりに元気です。今年も山に行けそう。いつも行く山道では渡る川ではよく落ちるので登山靴を止め、長靴で山へ行っている昨今です。**川越 重義**(横浜市) 定年後趣味で始めた水墨画で昨年、国際書画連盟の評議員に推挙されました。潮陵時代、現在の校章をデザインしたことを思い出し、その方面の才能があったのかと、この齢(81才)で気付かされた思いです。**三浦 久子**(静岡市) 年令を感じつつ、どうにか元気に過ごしています。大切な時を前向きにと思っております。**中山 条爾**(柏市) 老化防止にピアノ学習をしたり、メジャーリーグを楽しんだりして、なんとか元気に暮らしてい

ます。

【47期】**藤川 五百子**（杉並区）80才寸前の崖っ縁に立ち、ようこまで生きてきたものと自分自身驚いております。一人暮らしですが、三食を自分で作り、おいしく頂いているのが元気の源と思って居ります。**上野 淑子**（横浜市）3月21日日比谷公会堂に於いてポピュラーミュージックコレクション祭典に出演し大喝采を頂きました。出演料の一部を寄附します。6月後半からウィーンへ行ってきました。「21世紀の小樽運河」私の作った曲です。You Tube 聞いて下さい。**金子 明石**（松戸市）昨秋2ヶ月ほど入院し体力がガタ落ちとなり、今は送迎つきのリハビリ施設で運動機能の回復につとめています。

【48期】**吉田 洋三**（三鷹市）毎日2時間歩いています。**大石 好子**（浜松市）おかげ様で元気に生活しております。**土肥 邦夫**（鎌倉市）もっばら散歩(1万歩/日)と本読みです。**横山 忠幸**（板橋区）左足が調子悪く今回は欠席します。**照井 義弘**（日野市）元気で過ごしています。

【49期】**田中 穰二**（前橋市）NPOにてパソコン講師やシニア情報生活アドバイザーの養成などを行っております。昨年喜寿になりましたので、日常の生活で健康に留意し、また低山など歩いております。**岡崎 俊也**（川崎市）当日祝儀あるため欠席いたします。お陰様で元気に過ごして居ります。**鎌田 睦男**（町田市）今年一月に喜寿を迎えました。今後もうゆったり暮らしてゆきたいと思っております。

【50期】**蛸島 義弘**（入間市）このところ体調不良が重なって、その回復に努めています。ジム通いは継続しておりますが。

【51期】**佐々木 允明**（横浜市）元気にやっています。皆様によろしく。**住友 忠明**（小平市）毎日元気に通勤しています。**原 絢一**（さいたま市）切手をご覧ください。20世紀デザイン切手第6集(10枚)のなかの小林多喜二の切手です。多喜二の姉と母は小生の母の実家(朝里)に住んでおりました。**上諏訪 一明**（川崎市）3月に右膝の遊離骨片の摘出手術を受け現在リハビリ中です。加齢と共にトラブル発生続出です。盛会でありますように。**中川 一枝**（船橋市）後期高齢者になりましたが気持ちはいつまでも若いつもりで毎日を過ごしています。**野田 徹**（さいたま市）東北縦貫線(上野～東京)の記録を撮っていますが、来年3月開業の予定です。もっと早く出来ればと残念です。

【52期】**佐藤 陞**（横浜市）元気で。高田悦子（横浜市）旅行の予定が入っていて残念。次回の出席楽しみにしています。**上光 勲**（日野市）何とか元気でやっています。

【53期】**浜田 晴江**（横浜市）元気にしています。**白濱 英一**（横浜市）肺気腫の悪化と肺がん再発で治療中です。体力の回復に努めています。**堀内 昭忠**（春日部市）会報11号のフォト、少年時代良く遊んだ境内です。確か寺には日本一の大きい木魚がおりました。元気で急無く毎日を楽

しんでいます。

【54期】**上野 直子**（千代田区）残念ですが5月18日午後には太極拳教室の講師の仕事があります。**藤田 幸久**（横浜市）元気にすごしています。趣味のミステリー創作は15作目を執筆中です。楽しんでます。ジムに週2回通って健康維持に努めています。**本間 榮一**（大田区）当日、月8ヶ所行っている老人ホーム歌慰問に当たってしまい残念ながら欠席です。新会長の活躍を祈っております。**岩井 宏輔**（渋谷区）マッカーサが言った米国と戦ったのは連合側側の経済封鎖の為に(日本は自衛のため)であった。この事の研究をしております。**大浦 辰次郎**（練馬区）バレーボール部、ゴルフと旅行。**関 捷一**（鎌倉市）一応元気で年相応の生活をしています。皆様の御健勝を祈ります。

【55期】**藤本 祐一**（那須塩原市）20回以上、山に行きますが、昨シーズンのスキーはトレーニング不足だったと、毎年思っています。**村田 朋夫**（府中市）年金生活も板に付いてきました。日々安逸をむさぼっております。**木村 浩**（さいたま市）卒業後50年が過ぎましたが、現在も元気に会社勤めをしております。

【56期】**是安 克彦**（掛川市）民生委員3期目に入りました。**加藤 義雄**（上尾市）昨年7月孫達と小樽へ行き楽しんで来ました。今年も6月予定しています。

【57期】**本間 幸正**（相模原市）新会長の「潮陵に、小樽に何か支援を・・・」に賛成の一人です。懇親会が主目的の同窓・同期の会には嫌気を感じます。69才のマンション管理組合役員として奉仕の精神で頑張っています。**太田 泰史**（横須賀市）一年半以前より脊柱管狭窄症に見舞われ、手術を回避し現在通院による投薬治療中。それでも昨年は妻の兄弟の葬儀で二度小樽を訪問し、親友達と交流を図ることができました。**飯村 淳子**（流山市）春休みに帰省していた子供や孫(12名)達が帰りホッ！としている所です。稼業(温熱療法)に精を出して元気でおります。**石森 洋子**（柏市）3/15の麻布での同期会も盛大に終わりました。同期の熊谷征子さんと伺います。**稲垣 博司**（郡山市）現在県立会津大学で講師をしております。潮陵の同窓会記念行事(小樽市)に参加しました。多くの旧友と親交しました。東京潮陵樽中会の御隆盛を祈念しております。**杉山 範子**（守谷市）同じ年で今年共に古希を迎える夫と二人暮らしです。20年位難病とたたかって居りますが、家事などできるだけ身体を動かしてがんばってます。

【58期】**内山 一彦**（横須賀市）仕事、スキー、山登り、歴史的建造物保全活用のボランティアと楽しく、忙しく暮らしています。

【59期】**井上 祐子**（厚木市）お陰様で元気に公文教室をやっております。**堀 喜久子**（秦野市）ときどき仕事、ほとんど遊びの生活を送っています。年に一度は帰省し、小樽のたたずまいに触れています。**竹内 美恵子**（中央区）今年で6年目になりましたが、近くの老人福祉施設で看護師

をしています。人生の先輩達に教えられることの多い毎日です。

【60期】加藤 輝男（入間市）昨年5月に完全フリーになり自由気ままな生活を送っています。健康に留意し充実した毎日を送りたいと思っています。**沢里 信治**（所沢市）リハビリに頑張っております。**佐藤 和治**（利尻郡）退職後北海道帰り5年が過ぎました。**本間 知嘉子**（さいたま市）あちこち年令なりに弱くなっていますが、のんびり元気になっています。

【61期】中山 利一（船橋市）2月に父が亡くなり、母を引き取る事になりました。小樽が廃くなっていく気がします。**土屋 明重**（上田市）今年88になる母が小樽から越して来て一緒に暮らしております。今年で7年目になります。ダイケア、ショートステイ、病院での入退院、在宅での生活、大勢の皆さんの支えにより老いてゆく母を見守りながらの生活が続いております。**高張 賢一**（入間市）在学中は山岳部でした。現在も時々登っています。**高橋 昭**（朝霞市）同期では10月に小樽で、潮陵入学50周年で61名参加、11月初めにラグビークラブチーム「北海道バーバリアンズ」東日本準決勝戦応援で熊谷ラグビー場に6人が集合し、来週週末には決勝戦前の激励会と秩父宮ラグビー場応援に10名が集まる予定です。1月には全日本クラブチームの試合の激励会、応援に集まる予定です。

【62期】高橋 和夫（立川市）第一線を退き、第二の人生に「ボケ」ない程度の仕事をして、身の丈に合った生活をしています。

【63期】佐竹 茂市郎（立川市）在学中は、詩吟部で部長をしていました。高校卒業後、税務署（東京国税局管内）に勤務していました。現在は、税理士をしています。**中村 昭夫**（練馬区）①サークル：演劇部、②映画鑑賞、貨幣コレクション等、③大学卒業後は、ファッション関係の企業。長かったのは広報担当、その後は、練馬区立の駐車場指定管理の会社に勤務、現在に至る。60代後半の方が多く勤務され、60歳代は、「金の卵」と言われている。今回は新しい感覚での、素敵な会場を選んでくださいまして、期待しております。

【64期】林 温子（平塚市）湘南で隠居生活しています。

【65期】番匠 博隆（世田谷区）在校時は音楽部でした。会社を退社後は「自由業」を標榜しています。しかしながら、未だ、売りものを制作中であり、「自由」ではあるものの、「業」には至っておりません。**安藤 治**（狭山市）在学中は野球部。航空自衛隊を退職し、日々囲碁を楽しんでいます。**南澤 孝夫**（浦安市）潮陵では白潮会（美術部）に所属。現在は、製薬メーカーで研究開発に従事。

【66期】山崎 信行（千葉市）還暦になりました。オリンピックに向けて出場？無理ですが頑張ります。

【67期】石田 博嗣（船橋市）土・日は副業（生物の走る様に賭けする行為）で多忙の為、欠席致します。会の御盛況とOB皆様のご健勝をお祈り致します。**山口 緑**（船橋市）

成田、関空、千歳と国際線出発ターミナル内でみどり帯アーツというブランド名でオリジナルの浴衣や着物や帯をリメイクしたBAGや和小物の販売をしております。2ヵ月に1度千歳に出張し小樽在住の母や姉に会えるのを楽しみにしています。**山平 透**（春日部市）お役に立ちたいのでお手伝いします。高校時代は少林寺拳法部に所属。北海道に帰ると、部活の仲間と会うのが常です。拳法の話は出ませんが、4年前に大腸ガンになりましたが、今も元気に仕事しております。幸い転移、再発はなさそうです。この春、娘が大学に入学しました。学費がかかるので、まだまだ働かなくてはなりません。**澤田 道子**（仙台市）仙台で暮らしています。来春には山梨に帰る予定です。

【68期】野戸 美江（町田市）3年前に札幌市内の家に転居し、またこのたび東京に転居いたしました。

【71期】中島 史也 10月より母親の介護のため小樽に戻りました。**廣田 直行** サッカー部（暁鐘会）**滝谷 元**（鴻巣市）日々歯科医療にがんばってます。**円山 明**（日立市）先日同窓生から連絡があり、今年のお盆休みに、小樽で同窓会を開催する予定とのことでした。お盆の帰省に合わせて出席したいと考えております。

【73期】大町 宏志（立川市）今夏の73期同期会には三次会まで参加しました。硬式野球部が南道大会で準優勝ということで、二次会への移動中まで、そのことも話題になっていました。スクールカラーがオレンジということも、同期会および道新記事で初めて、また、あらためて知りました。**中村 裕之**（千代田区）平成24年12月に小樽市を含む北海道第4選挙区より衆議院選挙に当選し、衆議院議員として国政の場で働いております。

【74期】浅田 敏裕（柏市）現在は中小企業の購買課長として悪戦苦闘しております。初めての参加ですので、どうぞよろしくお願い致します。

【75期】杉中 雅博（横浜市）毎年、同じ団地の親父達10人位で、団地内の公園にて花見をしています。今年は長女も参加して一緒に飲みました。

【76期】森島 祐子（大田区）子どもの学校の保護者会で、偶然にも夫婦で潮陵の卒業生（6期下）の方がいらっしやり、担任の先生が同じだったこともあり思い出話がはずみました。

【82期】柳原文（小金井市）今年も生徒の海外引率のため欠席いたします。

【87期】渋谷 憲 在学中は剣道部 軽音楽部に所属しておりました。現在はプロドラマーとして活動しております。CM音源制作、ドラム講師等もやっております。よろしくおねがいいたします！！

【88期】矢嶋 香織（江東区）在学中はサッカー部のマネージャーをしていました。今回、斉藤誠矢くんからお知らせをいただき、こちらに参加する事にいたしました。現在は音楽関係で作詞など、いろいろしています。初めての参加にな

りますので、どのような会なのか楽しみにしております。
高木 直道（横浜市）在学中バドミントン部所属。現在、デザイン事務所雑誌や広告を作る仕事をしています。
田中 直喜（中野区）在学中は柔道部と新聞部にいました。北海道大学卒業後、上京し、現在は予備校で働いています。
【90 期】高橋 直成 小樽商科大学を卒業後、日本道路公団に就職。
葛西 雅子 上京 12 年目です。在学時は放送局に在籍していました。
【93 期】野崎 いづみ（狛江市）羽根球部でした。

【95 期】大塚 未来 在学中は美術部、白潮会に所属。その後、島根県立大学付属短期大学(英文科)へ。卒業以来東京。今は役員秘書。
【100 期】直江 香世子（板橋区）在学中は音楽部でした。現在は東京藝術大学の院生です。
【104 期】廣谷 壮介 卒業後、小樽商科大学で四年間を過ごし、今年の4月から新社会人として岡村製作所に務めております。

訃報 謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

大沼 六之助	(26 期)	平成 26 年 7 月	乾 進	(42 期)	平成 27 年 1 月
樋口 健三	(28 期)	平成 27 年 1 月	清水 晶夫	(45 期)	平成 26 年 3 月
鈴木 俊男	(35 期)	平成 26 年 3 月	飯沼 れい	(46 期)	平成 25 年 11 月
樋口 弘	(36 期)	平成 26 年 10 月	櫻田 昌彦	(46 期)	平成 26 年 1 月
田中 正良	(37 期)	平成 26 年 3 月	服部 隆男	(46 期)	平成 26 年 4 月
岡林 豊樹	(39 期)	平成 25 年 6 月	竹内 玲子	(49 期)	平成 26 年 10 月
石田 昌男	(39 期)	平成 26 年 5 月	石田 欣宏	(53 期)	平成 25 年 10 月
吉村 弘	(39 期)	平成 26 年 11 月	山本 来迎	(53 期)	平成 26 年 3 月

寄稿 「煙波はるかに わがこぐ舟は」の校歌に励まされて

本間 佳 46 期

潮陵高校の校歌を 83 才になる今日まで何百回唄ったことであろうか。私は潮陵高校に名称が変わる前の昭和 21 年(1946 年)小樽中学に入学した最後の生徒の一人です。「ああ潮陵に暁鐘は鳴る」に始まる校歌の歌唱を最初に指導してくれたのは音楽の先生であったか、応援団であったかは記憶は定かではありませんが、当時この校歌を唄っていると、大きな希望や力が心の底から湧いてくるのを感じたものです。私は 3 番の「煙波はるかに西はシベリヤ」の歌詞が好きでした。この 3 番にくると広く世の中へ、いや広く世界へ漕ぎ出して行く自分の姿が、夢の様に臉に浮かんできたものでした。

校歌を唄ったのは在学中に、新入生を迎え入れる時とか卒業生を送り出す時とか、又校長先生の交代に伴う歓送迎時などの式典と、特に庁商(現小樽商業高校)との花園公園グラウンドでの野球対抗試合に応援団の指揮のもとに、あらゆる声の振り絞って応援歌と共に校歌を高唱したのを思い出します。

今は他高校の校歌を聞くのは、春・夏の甲子園での高校野球で勝った側の校歌をテレビで字幕と録音でですが、その度にわが潮陵の校歌の歌詞と曲が、いかに素晴らしいかと改めて感じています。

幸いにも東京潮陵樽中会の年次総会や新年会では、校歌を唄って始まるので、私には往時の興奮が蘇ってきます。東京潮陵樽中会と言えば、5・6 年前であったと思いますが、会合で 14・5 年後輩と隣り合わせになり会話を交わしました。

北大の工学部出で、大手建設会社で設計に携わっていたとかでした。この人によると、数学が一番易しい学科だとかで、階段を一段ずつ登って行く様に学べば、いくらでも高い所へ行けるとかでした。それを孫達に話したら、その効果でしょうか、数学が得意科目となり、上の孫は東大へ進学し、下の孫は東工大を目指しています。私事を述べて恐縮なことですが、東京潮陵樽中会に出席したお陰であると感謝しています。私は 83 才になりますが、振り返ると私の人生は校歌に励まされ、校歌と共にあったと思っています。

昭和 40 年代までは、日本は外貨不足時代でした。私は勤務でヨーロッパに、アメリカにと赴任し、海外で外貨獲得に活躍しました。今日の日本の豊かさを築いたことに、僅かながらでも貢献出来たと思っています。

さて今年の 8 月ですが、潮陵高校同期 4 人でシベリヤはウラジオストックへ行きます。「煙波はるかに西はシベリヤ わがこぐ舟は」を実感する旅となりましょう。



樽中 3 年生当時



81 歳当時

雪あかりの路は昨日で閉幕。今年も大勢の観光客で賑わいました。さっぽろ雪まつりは、暖気の影響で溶けた雪像を壊すなど、急な対応を迫られたようですが、雪あかりはさほど影響を受けずに無事閉幕したとスタッフが教えてくれました。確か、昨年は大寒波に見舞われ、小樽人にとっても耐えられない寒さの中、大急ぎで会場を駆け巡り、赤提灯で熱燗を飲んだ記憶があります。この冬は暖冬のまま推移しています。真冬でも雨が降る異常な気象です。やはり、温暖化の足音が身近に迫っている気がしています。

私が立ち上げた日本スポーツ雪かき連盟が、スポーツ振興賞のスポーツとまちづくり賞をいただくことになりました。まだ立ち上げて二年目ではありますが、社会問題の解決とインバウンド向けの体験型プログラムを合体させ、ビジネスモデルも明確であることが評価されての受賞でした。2/10に上海の小学生から中学生12名をオーズスキー場(旧春香山スキー場)に招待して、雪かき、雪だるま作りを体験してもらいました。中国の一人っ子政策が生んだ小皇帝と呼ばれる子供と接することができたのはある意味貴重な体験でした。まあ、人の話しなんて聞きません。(笑) とりあえず、2チームに分けて並ばせて、スコップとママさんダンプを持たせて、笛を吹いてスタートの合図。最初はぎこちなくスコップとママさんダンプを使って雪を運んでいるのですが、劣勢と見るやチーム総出で雪の塊を手で運ぶ始末。そもそも、そんなルールではないのですが、無邪気に、そして賢明に運んでい

る姿を見て、そのまま好き勝手に遊ばせました。ルールに縛られることもないでしょう。遊びを通じて雪かきを体験してもらうことが目的ですから。参加者の一人王さんが北海道新聞のインタビューに答えて、「こんな辛い雪かきをする北海道人はストロングだ。」と語っていました。最後に上海の子供たちと記念撮影。雪遊びと交流という目的を達成できて満足な一日でした。当連盟としては、設立してからはじめて一般団体客の受け入れとなりました。これが100名でしたら、こういかなかったでしょう。少人数で経験できたことは今後の受入体制の参考になりました。

今年で2回目を迎える国際スポーツ雪かき選手権は、2/21(土)潮祭りの会場としても知られる第三埠頭多目的広場で開催されます。商工会議所青年部が主体となって準備を進めていますが、今年は参加者ばかりではなく見学者にも楽しんでもらう工夫がなされています。高さ5メートルの巨大滑り台に、小樽ビールなどの飲食コーナー。そして、雪かきのタイムトライアルにも挑戦できます。今年は春節が2/18から始まる稀な年。旧正月を北海道で迎える外国人をターゲットにしようと、昨年の1月開催から移行しての開催です。最近、小樽余市間のJRはマッサン効果と外国人観光客の北海道ブームに乗って満員状態が続いています。今日も小樽には中華系の観光客で溢れています。ホテルも2月にしては、どこも満室のよう。いつか、これらの観光客がスポーツ雪かきを体験する目的で来日する日を夢んでいます。



《プロが動くのは金ではない。彼らは金の帳尻を合わせることはできる。それよりも、夢で動きたいのだ。夢が最大限のモチベーションなのである。》(野地秩嘉・著「イペリコ豚を買いに」)

この冬、私はまさに“夢”で動いていました。

平成27年2月5～11日に開催されたさっぽろ雪まつりは今年から自衛隊が雪像製作を3基から2基に削減したことにより、残る1基を札幌市が請け負うことになりました。最近では地元の人々が敬遠しがちになっているこのイベントを、地

元で活動する人々の手によって札幌市民が楽しめるものにしてしようというのもコンセプトの一つ。4年の構想を経て決まったのは史上初となる人形オペラの上演という一大プロジェクト、大雪像をステージに人形と音楽が融合したオリジナルオペラを公演するというものでした。演目は「雪の国のアリス」。「不思議の国のアリス」を基に、北海道を舞台にして独自に創造された物語です。そこで私は主役のアリスを歌うことになりました。

100名を越える大所帯となったこのプロジェクトの総監督

に選ばれたのは、同じ小樽出身で大学の先輩でもある人形劇師・沢則行さん。世界で活躍する沢さんとは以前オペラで一緒にいたことがありました。普通のオペラでは経験できない人形とのコラボレーション、更なる表現の広がり…あの時の高揚感が一気に蘇り、これは必ず面白いものになるだろうと、二つ返事で引き受けたのでした。

史上初の試みにはクリアすべき数々の難題がありました。企画、制作はもちろんのこと、雪像制作、人形制作、音響、照明など、各セクションが氷点下の環境で最大限のパフォーマンスをするためには…関わる誰もが初めての挑戦です。歌手の私に課せられたのは、開催期間中、毎日夜に3回の公演(計21回)を歌い続けること。加えて地上12メートルの頂上に登り歌うこと。歌手にとって冷たい空気を吸うことは死活問題です。8分間の短い作品とはいえ氷点下で自分の体、とりわけ喉がどのような反応をするのか、高所が苦手だけど果たして大丈夫なのか、全く想像もつかないのです。しかしこの新たな挑戦に出来る限りの準備をして挑んでみようとは燃えていました。それらのリスクよりも、この未知なる経験は自分のキャパシティを広げるに違いないという思いが勝ったからです。そしてそれは私だけではありませんでした。誰もがそれぞれの難題に立ち向かいながら持てる力を注ぎ込んでいました。何より皆夢の実現に向けて食欲だった。失敗は出来ないという緊張感を抱えつつも、総勢100名を超える関係者、誰一人として諦めることなく夢のステージに向かって熱く進んでいったのです。現場は常に活気があり、その中で強いチームワークも生まれて行きました。

暖気に悩まされながらも開幕二日前に雪像が完成。ようやく

く姿を現した真っ白なステージ。そこに次々と運ばれる大きな人形たち。歌手、楽器奏者が加わり全体が音楽と光で満たされていく…そして大雪像は全員の力を結集した唯一無二のステージとなりました。

開幕すると連日溢れるほど多くの方々が駆けつけて下さり、おかげさまで満員御礼の大盛況。雨のため一日だけ休演日となりましたが、毎日3回の公演、計18公演を行い、のべ1万人を超えるお客様に観て頂いたそうです。特に雪の降る中での公演はことさら幻想的で得がたい経験となりました。わずか8分に様々な要素が凝縮された「雪の国のアリス」は、日々変化する天候も相まって毎回それぞれに思い出深いものとなりました。

夢が人の心を動かす。動かされた人が持てる技術と知恵を注ぎ込み、その力が結集されて大きなものを生み出す。夢は子どもだけが憧れる幻想ではなく、まさにモチベーションなのだということを実感した日々でした。同時に突き進む姿にはそれまで歩んできた人生や未来への願いも見えたりするもの。夢の実現で獲たものは、何よりも素晴らしい人たちとの出会いだったように感じています。

*今公演を追ったドキュメンタリー番組が放送されました。
BSフジ『一滴の向こう側』毎週土曜日 22:00～
第24回「雪まつり史上初…大雪像の上で挑むオペラ」(2月7、14、21、28日の4回)
下記ホームページから放送を視聴できます。
<http://www.bsfuji.tv/itteki/archives/24.html>



公演の様子



総監督の沢則行さんと

寄稿 「実りある大学生活を」

一橋大学法学部法律学科1年(平成27年2月現在) 中村 朋暉 108期

皆様初めまして。小樽潮陵高校108期生の中村朋暉と申します。私は108期生ということで昨年(平成26年)3月に潮陵を卒業し、樽中会には昨年に入会させて頂いたばかりですが、この度はこのような素晴らしい機会を与えて頂き大変光栄に思っております。

私は現在、一橋大学法学部に在籍しており、法学や一般教養、語学等の勉強に勤しむ日々を送っております。既に大学生活の4分の1を終えたわけですが、勉強以外にもバイトやサークル活動等を通じて様々な経験をし、非常に実りのある1年間が送れたのではないかと思っております。



そもそも私が法学部を志し始めたのは小学校5年生の頃でした。きっかけはフジテレビ系で放送されたテレビドラマの「HERO」でした。主演の木村拓哉さん演じる久利生公平検事の姿に憧れ、「自分も将来は法律を扱う職に就きたい」と漠然ながらも、小学生ながらに将来像を思い描いていたことを記憶しております。きっかけは軽率に思われますが、実際にこのように法学部

に入学することができたものですから、自分自身非常に驚いておりますし、法学部になにかしらの縁があったのではないかと考えております。現在、私は弁護士を目指しており、今春から本格的な勉強を始めようと考えているところです。司法試験に合格することがそう簡単なことではないことは重々理解しておりますが、この大学生活を有意義に過ごし、夢実現のために尽力して参りたいと思っております。

私が東京に上京してきてから早1年が経過しようとしているのですが、今思い返してみると、上京してきて本当に良かったと実感しております。もちろん入学当初はそうは思うこと

が出来ませんでしたが。もちろん北海道で暮らしていたとしても充実した日々が送れていたと思っておりますが、東京での暮らしは毎日が新鮮で、かつ刺激にあふれているように感じますし、何よりそういった環境での暮らしを通じて、自分自身が成長していることを強く実感することが出来ます。

大学生活において学業が第一であることはもちろんのことですが、学業以外の面をいかに充実させるかという点も、この4年間を有意義なものにする上で重要な要因の一つであると思っております。

私は現在、塾講師のアルバイトをしておりますが、このアルバイトを通じて、どのように話したら相手により伝わるのかについて、試行錯誤しながら自分なりの答えを見出すことが出来ましたし、私は高校生に世界史を教えておりますが、教える立場に立って初めて気づいた発見も少なくなく、自分自身にとっても非常に勉強となっております。今後はより多種多様なアルバイトをすることによって、さらに自分の見識や経験を深めていければよいと考えております。

この大学生活は、私が心身共に成熟した大人になるまでの「猶予期間」であると思っております。この大学生活を実りあるものにするのも自分次第、無駄なものにするのも自分次第です。一度きりの大学生活ですから、悔いのないよう過ごして参ります。

学校短信

小樽潮陵高等学校校長 湯田 恭丈

佐々島会長はじめ東京潮陵樽中会の皆様には、日頃より本校教育活動に多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

平成26年3月末発行の東京潮陵樽中会会報『潮陵』における佐々島会長のご挨拶「潮陵に、小樽に何か支援をし続けよう」という記事を読ませて頂きました。大変有り難く、心温まる思いでございます。また、今年の東京潮陵樽中会総会に出席させて頂き、皆様の母校に対する熱い想いを肌で感じ、校長として大きな責任を感じているところです。

それでは、本校の近況につきましてご報告させていただきます。

『引き継がれる文武両道の伝統』

平成26年3月1日、第108期生が「鳳高校の高き誉れ」を胸に秘め、本校を巣立って行きました。在校中は勉学・部活動に一心不乱に頑張り、北海道大学医学部医学科をはじめ100名が現役で国公立大学に合格しました。

一方、平成26年4月8日、雪を割り、新しい季節が萌え出る時、男子118名、女子122名、計240名の新入生を迎えて、新年度の船出をいたしました。

時代が変わり、若い世代の気質も変わったと言われますが、文武両道の伝統は今も綿々と受け継がれ、90%以上の生徒が部活動に加入して、勉学と部活動との両立に汗する姿が

見られました。

中でも夏の甲子園出場をかけた6月～7月に開催された、第96回全国高等学校野球選手権大会では小樽支部大会代表決定戦で、強豪北照を9-2の7回コールドで下し、見事南北海道大会出場を決めました。

南北海道大会では1回戦、知内高校を8-4、2回戦、恵庭南高校を8-6で破り、55年ぶりの準決勝出場を果たしました。準決勝では前評判の高かった浦河高校と熱戦を繰り広げ、9回表で4点リードを逆転され9-8となっていました。その裏も2アウトランナー無しの絶体絶命の状況……誰もが祈る様な気持ちで試合を見守りました。そして、……オレンジ色の歓喜の渦が応援席を覆いました。応援した全ての者が、手を取り合い、肩を組み、感動で涙する瞬間でした。創部111年、小樽潮陵高校開校以来初となる決勝進出を果たしたのです。

決勝でも東海大四高を相手に、最後の最後まで諦めないプレーで相手に挑み続けましたが、最後に力尽きて1-0で敗れました。しかしながら、まさに在校生と卒業生が一体となって、総勢1700名の大応援団が円山球場を埋め尽くしました。3塁側スタンドをオレンジ色に染めあげ、心の底から応援する姿に選手も大いに力をいただいたとキャプテンはじめ選手一同が感謝の意を表しておりました(詳しくは潮陵ク

ラブ会報『潮陵』第 80 号をご参照ください。

この度は東京をはじめ全国各地の卒業生の方々から暖かいご声援をいただきました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

他の部活動では、陸上部の伊賀麻由里さんが全道高校陸上選手権大会 400Mハードルで 65 秒 44 のタイムで 4 位となり 8 月に山梨県で開催された全国高校総体に出場しました。この記録は小樽後志新記録となりました。昨年の吉田紗奈江さん(現筑波大)に続く 2 年連続の快挙です。文化系の活躍もめざましく、新聞部が「手書き・ワープロ部門」で筑波市で開催された全国大会に、また、美術部の谷内山莉花さんの作品『時』が本年度の高文連全道大会で最優秀賞を受賞し、平成 27 年度の全国大会出場権を獲得しました。また、文芸部の柴田宏大君が作品『木の山田さん』で第 14 回全国高校生童話大賞銅賞(1060 編中上位 7 位)を獲得しました。さらには、演劇部が 11 月に小樽市で開催された高文連全道演劇発表大会で優秀賞(17 校中ベスト 4)を獲得しました。

結果、今年度はサッカー部、男子バレー部、軟式野球部をはじめ、体育系 12、文化系 9 の部活が全道大会に出場しました。

『同窓の皆様のご支援・ご協力に感謝』

昨年 11 月から東京でご活躍中の俳人 權未知子さんにご指導をいただきましたお蔭で、本校文芸部が 6 月に開催された「俳句甲子園」全道大会に初出場を果たし、新風を巻き起こしています。

8 月 4 日～5 日、本校初の取組として、3 学年希望者 6 名による「東大難関大ツアー」を実施しました。一橋大学を訪問した際には本校 108 期生の中村君が案内役をつとめてくれ、本校 62 期で現在一橋大学総長であられる山内進総長がお忙しい中、直接お会いして下さり現役生を激励してくださいました。また、夕食会では現役東大生や早大生、またそれらの大学を卒業して社会の第一線で活躍する OB が現役生を激励してくださいました。(詳しくは本校 HP「3 学年通信東大・難関大ツアー特集」をご覧ください)

活躍する先輩達の姿は在校生にとって人生の指針そのものであり、また目標でもあります。世代を超えたつながりの持つ力を在校生の糧としながら、未来への架け橋としての本校生と潮陵の伝統を大切に育ててまいりたいと存じます。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

(平成 27 年 2 月 6 日) 小樽潮陵高等学校 校長 湯田 恭丈



年会費納入と寄付・広告協賛のお願い／事務局より

東京潮陵樽中会は、昭和 33 年に発足以来、諸先輩、後輩の支援を得て 58 年目を迎える歴史と伝統を誇る広域関東圏在住者の同窓会です。

小樽同窓会との連携、母校支援・同窓支援につながる活動の具体化を目指し、本会の継続・発展のため若手会員募集に努めているところです。

本会の運営は会員諸氏の年会費一般 2,000 円、学生 1,000

円(75 歳以上無料)と寄付、広告協賛金によって支えられています。

平成 26 年度の前期収入のうち年会費は 200,000 円(100 名分)と寄付金は 237,000 円ですが、計画予算の 50%程度と大幅に少なく、平成 25 年度よりも厳しい状況になっています。このため、これまでは名簿登録者全員に郵送していました総会案内と会報ですが、最近の 5 年間に 1 回以上の年会費納

入・寄付または本会行事案内に返事をいただいた方々に限定して、今回は郵送することになりました。

この現状をご理解の上、つきましては年会費の納入と寄付のご協力・支援を改めてお願い申し上げます。

納付方法ですが、次の(1)～(4)いずれかの方法で振込みをお願いいたします。なお、振込みの際、通信欄・連絡欄等には会費・寄付の別、卒期、e-mail アドレスを記入いただくとう助かります。

また、広告協賛につきましては事務局までご連絡をお願い申し上げます。

(1) ゆうちょ銀行の払込取扱票による振込み

- ① 払込取扱票の口座記号「00180-8-」
- ② 払込取扱票の口座番号「61069」を右詰で記入
- ③ 加入者名「東京潮陵樽中会」

(2) ゆうちょ銀行からの振替(記号番号で電信振替)の場合

- ① 送金先口座は「00180-61069」
- ※ 払込取扱票での口座記号末尾「-8-」は不要

(3) ゆうちょ銀行からの振替(店名で電信振替)の場合

- ① 店名は「ゆうちょ銀行〇一九(ゼロイチキユウ)店」
- ② 口座種別は「当座」
- ③ 送金先口座番号「0061069」

(4) 他の金融機関(ゆうちょ銀行以外)から振込の場合

- ① 銀行名は「ゆうちょ銀行」
- ② 店名は「〇一九(ゼロイチキユウ)店」
- ③ 預金種目は「当座」
- ④ 口座番号は「0061069」

事務局長 岸田 仁(67期)

役員・幹事

役職	名前	卒業期	役職	名前	卒業期	役職	名前	卒業期
顧問	大浦 辰次郎	全54期	常任幹事	永野 茂	全54期	常任幹事	南澤 孝夫	全65期
会長	佐々島 宏	全65期	常任幹事	寺岡 恵美子	全56期	幹事	広田 直行	全72期
副会長	今日出夫	全67期	幹事	間 利弘	全58期	常任幹事	和田 一男	全74期
監事	佐竹 茂市郎	全63期	幹事	稲澤 君夫	全58期	幹事	飯田 恵之	全77期
事務局長	岸田 仁	全67期	常任幹事	東口 豊	全59期	常任幹事	木戸 敬太	全77期
事務局次長	福井 早枝子	全65期	幹事	柳田 眞典	全60期	幹事	織田 めぐみ	全79期
事務局次長	南澤 孝夫	全65期	幹事	瀬塚 孝	全61期	(連絡係)	鈴木 幸子	全81期
幹事	島 雄一	全46期	常任幹事	高橋 昭	全61期	常任幹事	柳原文	全82期
常任幹事	上野 淑子	全47期	常任幹事	武田 立	全62期	常任幹事	佐々木 文雄	全85期
幹事	増田 裕二	全48期	幹事	西谷 謙司	全62期	常任幹事	宮野 人至	全86期
幹事	六郷 民治	全49期	幹事	前野 一夫	全62期	常任幹事	小葉松 知行	全90期
(連絡係)	蛸島 義弘	全50期	常任幹事	橋本 明久	全64期	常任幹事	小島 綾乃	全90期
常任幹事	上諏訪 一明	全51期	常任幹事	苫 孝二	定64期	常任幹事	須永 いづみ	全93期
幹事	金栄 紘夫	全53期	常任幹事	滝沢 純	全65期	幹事	村上 文一	全99期

発行日 平成27年3月末日 発行人 東京潮陵樽中会 佐々島 宏(65期) 編集人 南澤 孝夫(65期)